

研究題目

どの子ども学ぶ喜びや意義を実感できる学習方法の追究
～ユニバーサルデザインの導入の試み～

目 次

- 1 研究の主旨
- 2 研究の視点・方法
- 3 研究の実践例
- 4 成果と課題
- 5 おわりに

千葉県柏市立富勢東小学校 校長 桑原 直子

1 研究の主旨

本校は全校児童102名の小規模校である。1学級の児童数も少ない実態を生かして全学年間で、たて割り活動を重視している。清掃活動や児童会活動をたて割りで行うことで異学年との交流を持ち様々な体験をさせることによって成長を促している。ただ児童全体が兄弟関係にあるような仲の良さがある反面、競争意識や自分の考えを主張することに対しての苦手意識がある。また、経験年数が少ない若手教員が担任になっている現状から、研究を基礎に更に教職員の資質・指導力の向上を目指している。

そこで、本校の目指す児童像「自ら進んで学ぶ子」①課題を持って学習に励む子②自分の考えを持ち進んで発表する子を育成するためには、通常の学級で取り組まれてきた指導や支援を、「誰もが使えて 誰もが便利」というユニバーサルデザインの考え方を取り入れて、授業に生かすことを研修することにした。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業作りが、児童像を達成するために必要であると考えたからである。

教師は、授業改善のために児童一人一人のニーズを把握し、分かり易い学習方法を追究すれば、児童は満足感や成就感が高まり、学力の向上につながると考えている。

学校全体で、ユニバーサルデザインの考え方に基づく教育環境（授業づくり・環境づくり）を整え、工夫した支援を行うことで、どの児童も授業に参加する意識を持ち、主体的に学習に取り組む子の育成につなげていく。又、全学年・全教科を対象とすることで、教師の質及び授業の改善、指導力の向上や主体的に学習に取り組む児童の育成につなげる。本年度は、授業のユニバーサル化を構築することを目標に、外部講師を招いたり、他校の研究会に参加したり学んだことを校内研究会にて蓄積しながら、実践に励んでいる。

2 研究の視点・方法

(1) 内容

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを進めるために、第一に授業の改善に取り組んだ。ユニバーサル化された授業とは、すべての児童にとって、分かり易い工夫がされた授業であり、教材教具の工夫や授業の組み立て、意図的な発問、授業形態等、様々な手立てを包括していなければならない。その手立てとして次の3つポイント①焦点化 ②共有化 ③視覚化を特に追究している。

①焦点化

児童の思考の流れに従って、授業を分かり易くシンプルにする。わからない子、できない子への支援、できる子、もっとできるようになりたい子への支援と捉えている。授業を組み立てる中で、児童に自力で解決させたいポイントを絞り、発問を精選することによって自力解決する見通しを持たせるようにする。これによって、一時間に乗り越えなければならない壁が整理され、学習に対して苦手意

識がある児童にとっては、どのように乗り越えなければならないかが明確になることで、思考の流れもはっきりする。

②共有化

児童同士が自由に意見を交換できる場面をつくる。学習に苦手意識がある児童にとって友達の話聞くことによって「わからない」部分が明確になり、自分の考えを自分の力でまとめたり、友達に伝えたりすることができるようになる。教えてもらうのを待つという受け身ではなく、自分から働きかけ「わかりたい」という意欲を子どもたち同士の知恵を出し合うことで、一緒に学んでいることを感じ「学びの構造」が確立されていく。

③視覚化

人間が得る情報の80%は視覚ルートから得られると言われている。視覚情報はどの子にとっても「あると便利・役に立つ」支援となる。授業の中で視覚的な手がかりを効果的に活用することは、見えないイメージや倫理を目に見える形にする。又、聴覚・運動感覚・運動操作を使って理解を深めていく方法や挿絵、写真、動画、ICT機器等を内容や場面に応じて活用することで、視覚に訴え思考を深めることができる使い方の工夫を考える。

(2) 方法

研究の対象は全教科とし、児童に身につけさせたい力を明確にすることで、指導目標の達成及び児童の発達段階や実態に応じた指導方法の工夫が進み、授業の質が向上し、「質の高い学力」の形成へと繋がると考える。又、授業改善を行うことによって児童一人一人が主体的に取り組み、授業が活性化すれば子どもたちにとっても達成感や成就感が得られ、学力の向上にも繋がると考える。

授業にユニバーサルデザインを学習に生かし、どの子にもわかる喜びや学ぶ意義が実感できる授業を構築することを目標に、柏市教育委員会の指導主事を講師に招いたり、他校の研究会に参加したりして学んだことを校内研究会に蓄積していく。

①3つの視点で授業を工夫する

授業で指導するねらいや内容を焦点化し、教材を工夫することで視覚化をはかり、授業で友達の意見の良さを共有化する。この3つの視点で授業を組み立て、校内授業研究会を重ねてきた。又、次の6つの項目を手立てとする。

- 1 板書と机間指導の工夫
- 2 授業のねらいや授業内容をもとのおすことができるようにする。
- 3 3つの視点を授業の流れに組み入れる。
- 4 話し方を工夫する

- 5 肯定的に工夫する
- 6 学級を育てる（学級経営の充実）

②研修の年間計画

- ・教科領域の年間指導計画の確認
- ・研究研修計画の決定
- ・ユニバーサルデザインについての研修（理論）
- ・研究研修の具体策検討
- ・校内授業研究（年間3回・全教員対象）
- ・実施内容の反省と改善点の協議
- ・研究のまとめ

③ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

道筋1 環境の整備 ～ 授業に入る前に～

- (1) 学級内の理解促進
- (2) ルールの明確化
- (3) 刺激量の調整
- (4) 場の構造化
- (5) 時間の構造化

道筋2 3つの視点（焦点化・視覚化・共有化）から考える。

焦点化・・・学習の流れ、学習問題、発問

視覚化・・・写真や挿絵の活用、言葉の文字化、本字の目標との関連性

共有化・・・ペアでの交流、発表の方法

道筋3 活用と習得

- (1) 本時の目標に迫れていたか確認
- (2) スパイラル化・・・言葉を組み合わせること、言葉で伝えることを生活や学習に活用する。

道筋4 指導案について

- ・児童観・・・単元の目標との関連を書く
- ・指導観・・・指導方針、全体への支援（焦点化・視覚化。共有化を含む）個への支援等を単元の目標との関連を考えて書く。
- ・単元の目標・・・関心・意欲・態度
- ・指導計画・・・指導案の肝（断言の目標を達成するためのものになっているか）

3 研究の実践例 単元 第4学年 国語科学習指導案より

単元名 言葉の使い方を考えよう

教材名 「言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ」

(1) 単元観

本題材は、学習指導要領〔B書くこと〕第3学年及び第4学年の目標「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる」を受けて設定したものである。

4年生の「言葉」単元では、2年生・3年生の「言葉」単元で学んだような、言語が知的な意味内容を伝える面と、気持ちや態度などの情緒的な内容を伝える面とがあることを踏まえ、新しい意味を伝えることの楽しさを学ぶことを目的としている。中学年は、観念や感情を抽象的・理論的に説明することがしだいに可能になる段階であり、言語学習においても言語表現のニュアンスを識別する能力が発達している。4年生の段階では、言葉や物からつけるイメージについて考える活動をとおして、「言葉は組み合わせ方によって、新しい意味が表現できたり、特定の感覚をこめることができたりする」ということを発見し、進んで表現を工夫する態度を養うことを目的としている。

本教材では言葉や物をもつイメージや、ものの音や声などをまねた擬声語及び状態をまねた擬態語について感じたり、考えたりすることから、言葉自体がもつ表現の豊かさやおもしろさを自覚できるように、多角的な視点から言葉のニュアンスを捉えられるようにしている。自由に言葉を組み合わせる楽しさを十分に味わいながら、一方で、言語表現は「伝わる」ことが大前提であることを改めて確認することも大切な学習内容である。

(2) 児童観（男子9名 女子17名 計26名）

本学級の児童は4月から高学年の仲間入りをし、新しく始まった委員会やクラブ活動、部活動などに一生懸命に取り組んでいる。また、朝の会では、「今日のニュース」という「1分間スピーチ」を行っている。そのスピーチを聞いていると、「〇〇が、〇〇しました。楽しかったです。」など、主語と述語はよくわかるが、具体的なことがわからず文章が終わっている児童が多い。聞き手からの感想で、「どのような形ですか?」「色は?」「味は?」など感想より質問が多く目立つ。質問する側は、話をよく聞き、気になることなので質問している。スピーチは、「人前で大勢の人に話をする場に慣れてもらう」ということを目的に取り組ませているが、話し手も聞き手に伝わりやすいように言葉の表現を工夫しなければならないと感じているところである。

【実態調査問題】

- ① ペットの犬の名前が「ココア」と聞いて、どのような感じを受けますか
- ② 「小さくて可愛いネコ」に名前をつけるとしたら、どのような名前をつけますか
次の3つのうちから選びなさい。選んだ理由も書きましょう。
- ㊸. ガンゴ ㊹. ミルク ㊺. ベンガル
- 理由：
- ③ □の中にはどのような食べ物が当てはまるでしょうか。
- ア. □をポリポリ食べました。
- イ. □をポリポリ食べました。

①について20人は、「かわいい」や「小さい」、「丸い」、「茶色や白色の毛」、「犬の種類」「茶色が好き」など大きさや色について名前から感じ取っていた。その他の6人は、「おいしそう」と答え、飲み物だけを想像しているように感じた。

②では、全員㊹と答えた。理由としては、「㊸と㊺は強そうな感じや大きい感じを受け、小さくてかわいらしいとは違うから」とほとんどの児童が答えていた。

③についてアは、「ポッキー」や「プリッツ」「じゃがりこ」など、日常の中で売られていたり、口にしたりしたことがある商品名を答えていた。理由としては、硬いけど少しの力を入れれば食べることができるものと答えている児童もいた。また、商品名からそのようなイメージを持っている児童もいるようだ。イは、「せんべい」と答える児童が多かった。理由は、硬いもので力を加えないと食べることができないものと答えていた。

(3) 指導観（全体支援……焦点化・視覚化・共有化、個への支援）

身の回りのものには、言葉を使って名前がつけられている。見たものからどのような感じを受けるか、また、それを言葉としてどのように伝えるのか学習の導入として楽しく話し合いたい。「言葉から受ける感じ」とは、その言葉を聞いたとき、あるいは目にしたとき、受け手がどのようなイメージをもつかということである。県民の日の次の日ということで、休み明けの頭を活動させるため、発表する場や発言する場を設けたい。

これらを指導する上で、導入で写真や挿絵を見ながら伝える楽しさ、難しさを感じ本時の学習問題を焦点化させる。その目標を達成するために、主発問を工夫していきたい。

挿絵や写真を使うことでイメージを持ちやすくさせ視覚的に捉えさせる。また友達がどのような感じ方をしたのか言葉を文字化することで視覚的に捉えることができるよう視覚化を図る。

ペアで話し合いを取り入れ、意見を発表し合う場を設ける。また、発表の場を設けることで、友達の良い所を真似したり、自ら工夫したりできるようにしていきたい。このように自分を表現することを系統立てて指導していけば、単元の終盤の

「修飾語」にもつながり、意欲的に取り組むことができるだろう。

※ 特別な支援を必要とする児童への手立て

○児童の立場に立った授業づくりをする。

(4) 単元の目標

○日常生活における言葉の使われ方を考え、新しい表現を工夫しようとしている。

○言葉や音が表すイメージから言葉を作ったり、その伝わり方を確かめたりし、言葉の性質について考えている。

○自分が作った言葉の意味を、わかりやすく話したり、友達の作った言葉に対して感想をもったりしている。

(5) 指導計画

次	学習内容	○指導 ・全体支援 ◆評価	個への支援
一次 ① 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉」について学ぶという学習内容を理解して、学習の見通しをもつ。 ・犬や身近なものを表す名前などをもとに、言葉から受けるイメージについて考え、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を用意し、言葉の特徴や面白さについて関心を高める。 ○日常での言葉の使い方を振り返り、言葉から受ける感じについて話し合う。 ◆日常生活の中での言葉の使われ方に関心をもつことができる。(発言・話し合い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで話し合い、イメージの共有を図る。
二次 ② ③	<ul style="list-style-type: none"> ・擬声（音）や擬態語をもとに、音とイメージの関係について考える。 ・「強そうな名前」「はじける感じ」など、言葉との感覚の結びつきについて考え、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉をくらべ、どんなお菓子を食べているのか、どのように食べているのか考え合う。 ○怪獣の名前やお菓子の名前を考え、感じ方の違いを話し合う。 ◆言葉の音がもつイメージとその伝わり方について、自分の考えをもつことができる。(発言・ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に合った実際のお菓子を用意する。 ・色を使って、「強そう」「弱そう」を比べられるようにする。
三次 ④	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でお菓子の名前を考えて、意味や気持ちなどが共有できるかどうか確かめる。 ・意味や気持ちを伝えられる言葉とそうでないものについて考え、言葉の特性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どんなお菓子か想像し、友達と話し合う。 ・聞いただけでお菓子の特徴が思いうかべられるような名前を考えられるように助言する。 ◆自分が選んだお菓子の名前や理由など、言葉の意味やイメージを相手にわかりやすく説明したり聞いたりしている。(発言・話し合い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前がきめられない児童には、まずは好きなお菓子からイメージさせるよう声かけをする。

(6) 本時の指導 (1 / 4)

①目標


- ・「言葉」について学ぶという学習内容を理解して、学習の見通しをもつ。(興味・関心・意欲)
- ・犬や身近なものを表す名前などをもとに、言葉から受けるイメージについて考え話し合う。(話すこと・聞くこと)

②展開

時配	学習内容	○指導 ・ 全体支援 ◆評価	個への支援	備考
15分	1. 写真を掲示し、教師に伝えるように意見を言う。 ・風景 ・子犬	・写真を提示することで、関心を高める。 ・「どんな」を答えさせる。	・意見が出ていない児童へ計画的に指名する。 ※動機が低いのか、答えが浮かばないのか、2つのパターンに合わせた声かけをする。	・写真
	2. 挿絵について考える。	・挿絵にすることで視覚的に訴える。 ○「かわいい名前だね」と出たとき、どんな犬かイメージをさせる。 ・本物の犬(ハスキー犬)を提示する。		・挿絵(2枚) ・写真
15分	3. 本時の学習の流れを知る。 4. 学習問題を読む。			
	5. タルトケーキの良さを相手に伝える。また、商品名を考え合う。	○ワークシートに載っているタルトケーキのイメージをペアで考え、友達へプレゼンテーションする。 ○商品名カードに商品名を書く。	・4つの言葉からイメージをすることができないペアへは、まずは1つの言葉でイメージさせる。	・ワークシート ・商品名カード

10分 5分	<p>6. 考えたイメージと商品名を発表する。</p> <p>7. 日常での言葉の使い方を振り返り、言葉から受ける感じについて話し合い、発表する。</p> <p>8. 次時の学習を確認する。</p>	<p>◆イメージしてぴったりの商品名を考えることができたか。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>○商品名など日常生活の中での使われ方に目を向けさせる。</p>	<p>・計画的に指名する。</p>	
---	---	---	-------------------	--

③板書計画

	<p>○ケーキ屋になったつもりで商品の宣伝をしよう。</p>	<p>④学</p> <p>イメージからどんな名前にするのか考え、話し合おう。</p>	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; height: 50px;">挿絵</td> <td style="width: 50%; height: 50px;">風景</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; height: 50px;">挿絵</td> <td style="width: 50%; height: 50px;">子犬</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="height: 50px;">写真 (ハスキー)</td> </tr> </table>	挿絵	風景	挿絵	子犬	写真 (ハスキー)		<p>六月 十六日 (水)</p>		
挿絵	風景											
挿絵	子犬											
写真 (ハスキー)												
<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">商品名</td> <td style="width: 12.5%;">商品名</td> <td style="width: 12.5%;">商品名</td> <td style="width: 12.5%;">商品名</td> <td style="width: 12.5%;">商品名</td> <td style="width: 12.5%;">商品名</td> <td style="width: 12.5%;">商品名</td> </tr> </table>	商品名	商品名	商品名	商品名	商品名	商品名	商品名	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 20px;"> <p>ワークシート 拡大</p> </td> </tr> </table>				<p>ワークシート 拡大</p>
商品名	商品名	商品名	商品名	商品名	商品名	商品名						
<p>ワークシート 拡大</p>												

④研究授業協議会内容

a. 授業の振り返り

- ・先生に教えてもらうのではなく、児童が自ら考えて発言、活動をしていたか。
- ・子どもたちの主体的な活動の中身はどうだったか。
- ・ルールは明確になっていたか
- ・視覚刺激や聴覚刺激は、軽減されていたか
- ・場や時間は構造化されていたか

b. 研究内容の方向性と具体的な指導のポイントについて

○焦点化について・・授業の狙いを焦点化し、学習の進め方を工夫する

- ・学習に見通しを持たせる。(今、何をするかわかる)
- ・学習に区切りをもたせる。(集中を促す)
- ・授業のねらいを(山場)を確認し、明示する。
- ・学習活動を絞り込む
- ・展開を構造化する
- ・発問を精選する(主発問の工夫)
- ・教材にしかけを作る(教材の教材化)

○視覚化について・・視覚的な手がかりを効果的に活用する

- ・視覚・聴覚・触覚・感覚を使って理解を深める
- ・言葉だけでなく、見てわかるようにする
- ・見えないイメージや論理を映像化する
- ・挿絵、写真、動画、ICT機器等を活用する
- ・板書を精選し、構造化する

○共有化について・一緒に学んでいることを感じ、見方や考え方の良さを全員に広げる

- ・共有化の流れをつくる
- ・「わかる」「できる」子どもだけの話し合いではなく、全員が参加できる話し合いを工夫する
- ・効果的にノート指導をする
- ・小刻みに全員が活動する活動内容を仕組む

c. 授業の流れについて—「みんなが参加できる授業」「わかる授業」にするための一時間の授業の流れを組み立てる（学習の進め方の工夫）



- ①「教材にしかけを作る」・・・教材の創意工夫
授業の導入段階に、授業の狙いに沿った事象提示をすることで、児童の興味・関心を引きつけ、授業に参加しようとする意識をもたせる。



- ②「学習に見通しを持たせる」・・・学習の流れを明確にする。
学習活動を視覚化することで、何をすればよいのか。学習活動に見通しを持たせることで、不安を抱かせないようにする。



- ③「時間を視覚化する」・・・活動時間を自分で確認できる。
活動時間を提示することで、時間の配分ができるようになる。決められた時間内で活動を終わらせるよう、時間の使い方を工夫出来るようになる。



- ④「発問を精選する」・・・課題に集中させる。
主発問の工夫することで、学習活動を絞り込むことが出来る。情報の量を絞り込むことで、課題が焦点化され、考えがまとめられる。



- ⑤「個別の支援をする」・・・つまづいている子を救う。
個別に支援をすることで、つまづきを取り除くことが出来る。「できた」「わかった」を実感させることが大切である。



- ⑥「共有化の流れをつくる」・・・考え方の良さを広げる。
全員が参加できる話し合いを工夫することで、違う考え方を吸収したり、自分の考え方を深めたりすることにつながる。

4 成果と課題

(1) 成果

〈教師の変容〉

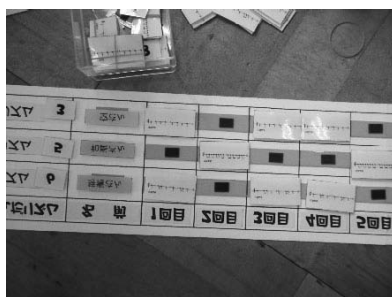
- ・ 3つの視点（焦点化・視覚化・共有化）から授業づくりをすることにより、授業に参加するための環境整備を校内統一することができ教師の授業に対する意識改革も少しずつ進んできた。



・ 5年生の音楽科授業

「いろいろな音のひびきを味わおう」

- ・ 学習の見通しをもたせた。
- ・ 授業の流れと目標を確認した。
- ・ 児童の活動を活用し、学習活動を絞り込んだ。



「いろいろな音のひびきを味わおう」の教材資料

- ・ 視覚化—リズムカードを活用することで、リズムの順番やグループ全体のリズムアンサンブルが分かり易く演奏できる「しかけ」をつくった。

〈児童の変容〉

- ・ 学級内の理解促進を図るために、「困った子」ではなく「困っている子」と考えることを定着させることにより、児童同士の理解が深まり素直に思っていることが言える学級の雰囲気づくりが整ってきた。
- ・ 小さな成功体験の積み重ねを子どもたちに体験させることで、授業にも生き生きと参加し自ら学習に取り組む姿も見られるようになってきた。



5年生 音楽科授業

- ・ リトミックを行うことで体と心をほぐし、一緒に学んでいるのが感じられた。
- ・ 曲に合わせてリズム打ちをすることで、本字の目標である「リズムをあわせながらリズムアンサンブルを考えよう」に近づけた。
- ・ いろいろと試しながら話し合いが進められるように教師が学習に区切りを持たせ、集中を促す。
- ・ 音色やリズムを組み合わせながらリズムアンサンブルを作るねらいが明確にした。
- ・ 自分たちの演奏を録音し、振り返りができた。
- ・ 授業中に子どもたちから「楽しい」「分かり易い」という声が聞かれるようになってきた。



(2) 課題

- ・ユニバーサルデザインを学習に取り入れるための手立てが、まだ明確になっていない部分がある。(単元の評価の焦点化)
- ・児童の考えや自主的な活動を取り入れた授業が展開できるような教師の指導力の向上を図る。
- ・授業に生きる効果的な教材、教具の合同研究の推進
- ・授業の山場(目標)に向かっての効果的な「しかけ」の吟味と開発を行う

5 おわりに

本校がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり研修を進めてから2年目になる。1年目は外部講師による理論について学び、2年目はそれに加えて、研究授業による実践の積み重ねを行ってきた。

まだ、研究の序章ではあるが、児童の学習に向き合う姿勢や学級の雰囲気を見てみると、少しずつだが授業の改善が見られ、児童が主体的に学習に取り組む姿勢がみられるという手応えを感じている。それは教師も同様で、指導案検討会に向けて、放課後の職員室では授業内容や教材についての意見交換が行われ、校内授業研究会においても多様な意見が多く授業に対する高い意欲が感じられた。

「わかる授業」は、児童にとっても教師にとっても楽しく、笑顔で終われる授業なのだ と確信している。今後も課題を解決するために実践を積み重ね、目指す児童像の育成に向けて研究を続けていきたいと考えている。